

名古屋大学における新入生向けパソコン講習会実施報告

堀江悟*1・大津瞳*1・戸塚健太*1・平野春香*1・高橋克典*1・宮路仁崇*1・谷本茂人*1
 桑島侑也*1・藤瀬早紀*1・内和泉*1・櫻庭優*1・小野聡大*1・笠松真子*1
 Email: renustaff.2013@gmail.com

*1: 名古屋大学消費生活協同組合 ReNU

◎Key Words パソコン講習会

1. はじめに

私達は、名古屋大学新入生サポートセンターReNU という生協団体に所属している。(以下、「名古屋大学新入生サポートセンターReNU」のことは「ReNU」と称する。また、ReNUについての説明は2で触れる。)

ReNUの活動において、毎年3~4月に生協PCを購入した新入生を対象にPC講座を開講している。この活動内容について報告する。

2. 名古屋大学新入生サポートセンターReNUについて

活動内容はアドバイザーとして新入生の入学準備のサポートである。具体的には生協加入の手続きや教科書購入の方法についての説明、一人暮らしを始める新入生に対する住まいの斡旋等を行なっている。また1でも述べたように、PC講座の運営も行なっている。現役の名古屋大学生から構成されており、学生からの視点で実生活に即したアドバイス・サポートを実践している。

3. PC講座の概要

3.1 PC講座の趣旨

PC講座はReNUの学生アドバイザーが講座作成し、講師を担当する。現役名古屋大学生がPC講座の作成や講師を行う理由は大きく2つある。1つ目は、業者に外注した場合、大学生協のパソコンの特徴や大学で利用するメールソフトなどの大学生活に関する知識を伝えることができないからである。2つ目は、現役名古屋大学生がPC講座の作成や講師を行うことで、実際の体験から大学で本当に必要なことを漏れなく伝えることができるからである。

講座の大きな目的は、大学生活で困らないためのパソコンの知識を身につけてもらうことである。また、生協PCを講座内でセットアップし、受講生がPCの操作方法を学びながら発表やレポートを作成するための基礎知識を付け、この中でパソコンのスキルを向上させていくことも目標にあげている。

これらのことが大学でPCを使用する上での不安を解消すると考え、「新入生がいきなりスタートを切れる講座」をコンセプトに講座の運営を行なっている。

3.2 PC講座の構成、開講頻度

パソコン講座は大きく2つに分かれている。セットアップ講座と活用講座がセットとなっている基礎講座とアドバンス講座である。アドバンス講座は活用講座よりも発展的内容を希望する受講生が追加で受講する。これらの講座の流れを図示したのが、図1である。

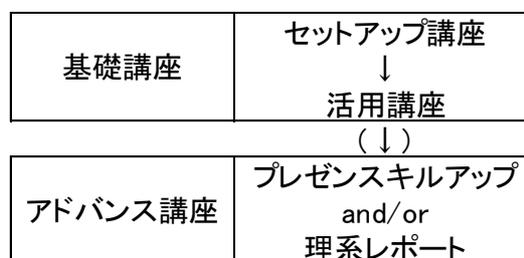


図1 PC講座受講の流れ

各講座の日程は自宅から通う学生や一人暮らしの学生の両方が受けやすいように多くの日程を用意し、新入生の予定に合わせて選べるようにしている。

続いて、各講座の概要を述べる。

- セットアップ講座
 - ・講座時間 2時間
 - ・18日程から1日程選択
 - ・PCの初期設定を行い、設定後、Windows7の機能紹介をする。
 - ・大学内で使うメールソフトやワイヤレスネットの説明をする。
 - ・大学生がよく使うSNSとしてSkypeを紹介する。
- 活用講座
 - ・PPT、Excel、Wordの各アプリケーション 2時間を同日に行う
 - ・6日程から1日程選択
 - ・PPT講座では講師の操作説明の下、受講生に自己紹介スライドを作ってもらい、作成後、受講生同士で作成スライドを使った自己紹介をしてもらいプレゼンテーションについてのノウハウを知ってもらう。

- Excel 講座では講師の操作画面と説明スライドを参考にアンケート集計や家計簿のデータ処理などを行なってもらう。また Excel の操作に慣れてもらうと同時に、Excel の機能や活用方法を紹介する。
- Word 講座では、未完成のレポート課題を完成させるという設定で、文字だけが打たれた Word データに見出しやヘッダー・フッター等を付けて形式を整えてもらう。Word の機能を紹介すると同時にレポートのノウハウを身につけてもらう。

● アドバンス講座

- 各講座 3 時間
- 4 日程からそれぞれ 1 日程選択
- 2 種類の講座を希望を基に選択
(以下、各講座説明)

■ プレゼンスキルアップ (全学部対象)

- プレゼンをするコツなど、発表するにあたって必要なことを学ぶ。
- 配布資料からスライドを作ることで PPT のスライド作りに関する知識を深める。
- 3、4 人のグループに 1 人 TA がつく。作成スライドをグループ内で受講生 1 人 1 人に発表してもらい、TA と一緒にグループ内でフィードバックを行う。

■ 理系レポート (理系学部対象)

- 実験レポートでよく使う Excel の関数を紹介し、計算を行なってもらう。
- 実際に配布データ中の実験データを処理することで、実験データの処理や近似曲線の挿入方法について身につけてもらう。
- 講座内で処理した実験データを基に Word で実験レポートを作成してもらう中で、実験レポートの作成方法を紹介する。

4. PC 講座の組立

4.1 セットアップ講座

生協 PC をセットアップするのに必要な時間を事前に測る。測定時間を基に受講生の入力時間を考慮して、タイムテーブルを作成する。また、前年の講座内使用スライドの PC の写真の差し替えや内容修正を行う。修正においては、セットアップ内容に関する点だけでなく、新入生の意見や昨年の受講生に対して行なったアンケートを基に講座内容そのものについても改善を図る。

4.2 活用講座・アドバンス講座

各アプリケーションにリーダーを設置し、ReNU メンバーをアプリケーショングループに振り分ける。

2 月に、前年の講座内容を元に、グループ内で、実際に講師をして感じた反省や改めて大学生活で自分たちが必要だと感じた内容を出し合い、新入生の意見や昨年の受講生に対して行なったアンケート内容を踏まえて修正や資料作成を行う。

プレゼンスキルアップ講座は活用講座における PPT グ

ループが、理系レポート講座は Excel グループが活用講座の作成と並行して 2~3 月に作成し、講座リハーサルを行うことで講師の指導スキルを高める。

5. 講座における工夫

5.1 内容における工夫

工夫している内容として、主に以下を挙げる。

- 大学でよく使う機能を覚えてもらえるように、学生目線の講座を作る。
- 1 教室につき講師 1 人 (活用講座では 3 人) と TA (Teaching Assistant) を 4、5 人付ける。TA は困っている受講生の対応を行い、受講生が講座進行に取り残されないようにする。
- 息抜きに大学の話をするすることで、大学生活に対する不安を解消し大学生活のイメージを掴んでもらう。具体的には、以下のことを実践している。

- セットアップ講座の入力時間や少し待機時間が長引いてしまった時に、入学前後に新入生に向けて行われる行事などについて体験談などをまじえながら話す。
- 活用講座の Excel 講座において、受講生全体の操作時間を合わせるために操作が終わった受講生に向けて履修や大学生活での体験談を話す。
- 活用講座の Word 講座において、講座内で受講生が操作する Word データの内容を名古屋大学についてのレポート課題という設定にし、操作の合間に大学について知れるようにする。

5.2 講師や進行における工夫

- 9 月開催の PC 講座夏研修 (東海事業連合主催) において他大学の生徒などの前で講座を行うことで、講座を別の角度から見た上での改善点を指摘してもらい講座内容や講師スキルの改善を図る。また、8 月に行われる新人研修を兼ねた PC 講座夏研修では、新人に講師体験をさせることで講師としての心構えなどを身につけてもらう。
- 講師の間違いを指摘したり、時間管理をしたりできるよう、受講生の後ろの方から TA が指示を出す。方法としては、スケッチブックにマジックペンで伝えたいことを書く。また、よく出す指示に関してはあらかじめ書いてあるページを使う。
- セットアップ講座においては、前に 2 つのスライドを並べてセットアップの手順を説明する。1 つは講師が実際に受講生と同じタイミングで PC をセットアップしている画面を写すために用いる。もう 1 つのスライドは、PC の機能説明や操作上の注意などを写すためにセットアップ中の画面を写すスライドの隣に設ける。

- 活用講座の PPT 講座において 1 日の講座をリラックスして受けてもらうための出だしとして、講座開始直後にアイスブレイクという項目を設ける。ここでは、座席が近い新入生同士でゲームをしながら自己紹介をしてもらい、新入生の間での交流を深めてもらう。また、講座内で各受講生が作成したスライドの発表をスムーズに行うという目的もある。
- 受講生間の交流を考慮した座席の配置を行う。具体的には、同じ学部・学科を固めることで学部・学科の知り合いを作りやすい環境にし、入学前の不安の 1 つである孤独感の緩和を心がける。

5.3 講座後につなげるための工夫

- 大学が始まり講座から日が経って教えた内容を忘れた場合などでも講座内容を実践してもらえよう、講座内で参考にするテキストを作成し受講生に配布する。また、テキスト内容も PC の操作画面をカラーで図示するなど分かりやすさを心がけている。
- 毎回の講座において、講座を行う部屋には必ず講師と TA 用の反省用紙を置き、講座中における反省点をメモする。講座後はその用紙を基に講師と TA が講座全体の反省を行う。この時、講座終了後に受講生に書いてもらったアンケートに目を通し、受講生が講座中に感じたことを把握する。また、同じ日に複数の教室で講座が合った場合は、各教室の反省後、別の教室の反省を共有する時間を設け次の講座に生かせるようにする。

6. 成果

6.1 数値で見た PC 講座の需要

新入生における入学前の PC 講座への需要がどの程度であるかを、講座申込者数から見た。

生協 PC 購入者数 1104 名に対し、セットアップ・活用講座の申込者数は 831 名であり、新入生全体 (2247 名) の 1/3 以上の方に申し込まれた。また、アドバンス講座申込者数は、プレゼンスキルアップ講座が 126 名、理系 Excel 講座が 212 名であった。プレゼンスキルアップ講座・理系 Excel とともに定員数を超える人気で希望者に対して制限を設けたため、次回は定員枠を広げることが視野に入れている。

この数値から、多くの新入生が入学前に PC 講座を希望していることが分かる。

6.2 講座内容に対する受講生の評価

講座内容に対し受講生がどのような評価をしているかを講座終了後に受講生に対して行なったアンケートの内容を基に評価したい。また、今回の集計結果が各講座において似通った結果となったため、私たちの講座の構成において主となる活用講座の集計結果のみを掲載し、セットアップ講座とアドバンス講座の集計結果は割愛した。

● 活用講座に関して

講座終了後に各アプリケーション講座における難易度、スピード、総合評価を 5 段階で評価してもらい、講座内容に対する評価を得た。全日程の平均をグラフ化したのが図 2 である。

具体的意見としては、「パソコンには詳しくないが、説明が丁寧でわかりやすかった。」「Word や PowerPoint は今まで使っていたけれど、知らなかったような機能が知れたことがよかったです」などの前向きな意見が多かった。一方で、「最初は高校でやったから意味ないと思ったけど、まあまあ良かった。」という物足りなさを感じる受講生の意見も見られた。

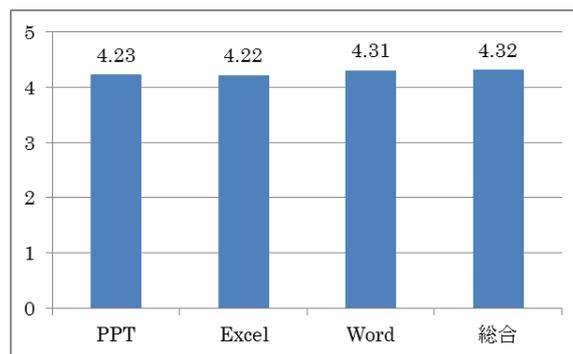


図 2 活用講座における全受講生の総合評価

● セットアップ講座に関して

セットアップ講座に関しては受講生からの意見として、「友達とは自分でセットアップして時間がかかっていたので、講座内で無駄なくセットアップ出来たのでよかった」などの意見があった。

● アドバンス講座に関して

アドバンス講座に関しては、「今日の内容はほとんど知らないことばかりだったので、教えてもらえてよかったです。」「活用講座の復習にもなってますごくよかったです。」などがあり、活用講座の内容を基礎に発展したスキルを教えるという趣旨に見合った意見が多く見られた。

7. 今後の課題

今後の課題として、大きく2点が挙げられる。

1つ目は、高校における情報の授業内容と重なる点が多いため、PCが使える人と使えない人のどちらにも満足していただく内容を作成していくことが挙げられる。この点に関しては、新たに新入生サポートセンターに加わった新入生を中心に講座内容の改善を図っていくことで解決したい。改善を進める上で、PCをあまり使ったことのない人がこれからの大学生活でPCを活用していこうと思える足がかりとなることを重点に置き、PCを使い慣れている人に標準を合わせないことに注意していきたい。

2つ目は、実際の大学生活の中で何がどのように生かされたのかについて、ほとんどの受講生から意見を回収出来ていないという課題が残されている。これまで講座に関する反省で用いてきた受講生アンケートは講座終了時に取ったものであるため、大学生活を始めていない受講生の意見がほとんどである。これでは講座内容が受講生にとって本当に大学生活で役に立ったのかが明確にならず、講座内容を改善していくには不十分である。現状として、講座内容が実際の大学生活でどの程度生かされたのかについてはReNUに入った新入生や構成員の知人の中でPC講座を受けた者の意見のみを反映しているが、数や意見の幅に限界があり受講生全体からアンケートを取ることが望ましい。ここでは、新入生サポートセンターを利用する機会の少ない大学生活開始後において、どのタイミングでどのようにアンケートを取るかが具体的な課題となっている。

今年は6月にPC購入者へダイレクトメールを送る際に、アンケート用紙を同封することで改善を試みている。うまく集計が取れれば、集計結果の反映に全力を尽くすつもりだ。もしうまく集計が取れなければ郵送時期や集計方法などを改善していきたい。

8. おわりに

PC講座の内容に関する新入生の評価は高評価が多いというデータが得られたが、まだ改善すべき課題は残されているため、評価に甘んじず今後もよりよい講座運営を進めていきたい。

この論文作成を通して、理解したつもりでいたり当然のように受け止めていたりしていた曖昧な部分をより明確に認識できたと感じる。この明確になった部分をReNU内で共有し講座作成の指針としたい。

また、この指針を基にアンケートやReNUの新入生から得られた意見を積極的に取り入れて行こうと思う。PCを使う機会がなかった人やPCに苦手意識を感じている人が大学で積極的にPCを使おうと思うきっかけとなるような講座を作るつもりだ。